

平成24年3月31日

財団法人富山第一銀行奨学財団

理事長 金岡 純二 殿

助成研究成果概要報告書

教育機関名 : 富山大学	助成金額 : 600 千円	
研究代表者 : 高橋満彦	所属 : 人間発達科学部人間環境システム科	職位 : 准教授
研究題目 : 人と自然が触れ合う場における鳥インフルエンザ等のリスク管理に関する政策研究		

【研究概要】

本研究では、人と自然が触れ合う場における鳥インフルエンザ等の人畜共通感染症リスクにどう取り組むべきかについて、政策検討を行った。

鳥インフルエンザは渡り鳥の野鳥が媒介するもので、県下においては2010年に、高岡古城公園のコブハクチョウに感染が確認され、全国的に注目を浴びた。

従来の家畜伝染病予防法は養鶏場のような畜産業を対象に制定されていることもあり、動物園や親水公園など、公衆が動物と触れ合う場でのリスク管理が欠如しているため、取りうる法的対策について検討した。検討対象は、家畜伝染病予防法や鳥獣保護法などが中心だが、鳥インフルエンザが国際的に伝播することから、渡り鳥保護条約などの国際法にまで研究は及んだ。また、鳥インフルエンザへの警戒から、野鳥全体を忌避する傾向も心配されるが、一方では餌付けのように感染症拡大のみならず生態系へのマイナスの影響を招く懸念のある行為も広く行われているといった問題もあり、このような問題についても検討し、理想的な人と野生動物へのふれあいのあり方を念頭に、現地調査や関係者ヒアリングなどを通じた研究を遂行した。

現在のところ論文1件が受理、口頭発表2件が発表されている。特に米国 Lewis & Clark Law School における発表は、全米から集まった環境法・環境政策の専門家を前にしたもので、重要である。

(論文) 1. M. A. Takahashi, "Migratory Bird Treaties' Issues and Potentials: are They Valuable Tools or Just Curios in the Box?", Environmental Law (受理)

(学会発表) 1. M. A. Takahashi, "Migratory Bird Treaties: Its Issues and Potentials" 日本鳥学会 2011 年度大会 (口頭発表) 2011 年 9 月 18 日、大阪市立大学

2. M. A. Takahashi, "Migratory Bird Treaties: Its Issues and Potentials from the View of Japan", Migratory Bird Treaty Act Conference, 2011 年 10 月 22 日、Lewis & Clark Law School, USA.